

研究課題名	前立腺癌に対する薬物治療に関する観察研究
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提 供する場合その方法）	現在、前立腺癌に対して数種類のお薬が使用されています。使えるお薬が増えるのは良いことですが、お薬を使う順番はまだ確かなものはなく、各医師の判断で使用されています。そこで、当院で前立腺癌のお薬による治療を受けられた方の治療成績を調査し、それぞれのお薬の治療効果や使う順番などがわかれば今後の前立腺癌治療に役立つと考えました。
研究対象者	2014 年以降にベルランド総合病院泌尿器科へ前立腺癌治療のために受診され、エンザルタミド（イクスタンジ®）、ダロルタミド（ニューベクオ®）、オラパリブ（リムパーザ®）、アビラテロン（ザイティガ®）、ドセタキセル、あるいはカバジタキセル（ジェブタナ®）を使用した方
利用又は提供する試 料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 診療情報：生年月、前立腺生検施行日、診断時 PSA 値、診断時グリンスコア、診断時病期、根治的治療内容、初回内分泌療法開始日、去勢抵抗性前立腺癌の診断日、骨に対する治療薬使用の有無、緩和的放射線療法の有無 血液検査結果：PSA 値 薬物治療開始時：導入時 PSA 値、身長、体重、PS（Performance status※）、内臓転移の有無、骨転移の有無、リンパ節転移の有無、脳転移の有無、前立腺原発巣の有無、合併症、疼痛・鎮痛薬使用の有無 （※PS：全身状態の指標。患者さんの日常生活の制限の程度を示します） 薬物治療経過； ・アビラテロン、ダロルタミド、エンザルタミド、オラパリブの場合：投与量、休薬有無、減量有無、PSA 値推移、画像評価、転帰確認 ・ドセタキセル、カバジタキセルの場合：投与日、投与量、減量の有無とその理由、投与延期の有無とその理由、G-CSF 投与有無、PS 値推移、画像評価、転帰確認 ・有害事象（お薬を投与された方に起こる医学的に好ましくない事象のこと。お薬との因果関係は問いません）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2030 年 12 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者 の範囲	この研究はベルランド総合病院 泌尿器科のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又 は機関の名称	ベルランド総合病院 院長 片岡 亨
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 泌尿器科 氏名：玉田 聡 メールアドレス：s_tamada@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）